

# [青鳥城跡]探訪レポート

(おおどりじょうあと)

次々の地図の通り、説明板(赤丸印)を赤矢印の方向に見る



## 県指定史跡「青鳥城跡」

おとしりじょうあと

昭和九年三月三十一日指定

城跡は東松山台地の南縁部に立地し、都幾川の河岸段丘を南に見下ろす所に位置します。

城郭は本郭（ほんぐるわ）と二の郭及び三の郭から成り、史跡の指定範囲は本郭と二の郭の部分で、土塁・空堀・水堀が昭和四十七年の発掘調査で確かめられています。その規模は東西約五五〇米、南北約三〇〇米を測ります。二の郭の土塁には城を守るために、北側の中央部でクランク状に折れ曲がる折邪（おりひずみ）が認められます。三の郭は一部が残存し、二の郭の外側へ同心円状に拡がり土塁と堀が築かれていました。この城郭は多曲輪形式といわれています。

城郭の配置（縄張り）から築城の順序は、本郭を最初につくり、その後二の郭と三の郭が増築されたとみられます。この築城方法は、嵐山町の菅谷館跡と類似しています。

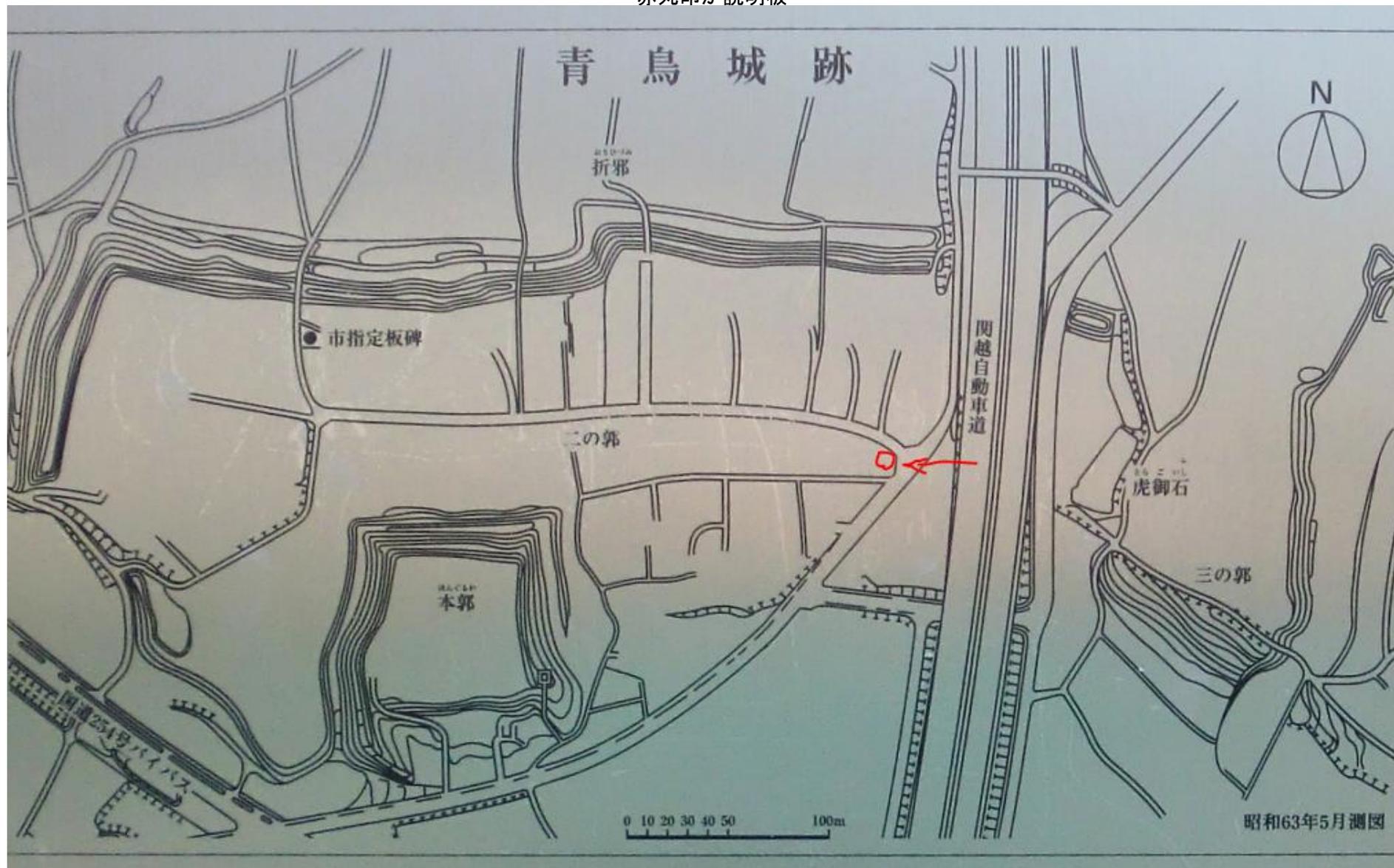
築城時代については、『源平盛衰記』に源頼朝が武州月田川のはた青鳥野に陣をとる（寿永二年・一一八三年）とあり、本郭は十二世紀末（平安時代末期）には築城が明らかです。天正十八年（一五九〇年）前田利家の軍に落城し、十六世紀末に廃城となりました。

築城当初の居城者は定かではありませんが、『妙昌寺縁起』には建武元年（一三三四年）に青鳥城主として藤原齋心入道利行がみえ、後北条時代には山田伊賀守直安が在城したと伝えられています。

平成十四年三月



赤丸印が説明板



説明板位置から高速道路に沿って北(上)に進み、高速道路橋を右に渡って三の郭、虎御石方面に進む/左手は怪しげなラブホテル





錆ついた青鳥城と書かれた標柱



この高速道路橋を渡って反対側へ進む



正面は三の郭、虎御石方面



ここがオタメ池/三の郭の水堀の一部とのこと







# 忘れ去りたくないもの

都幾川歴史道コース 2



ウリ      コナラ      スギ



ヌレア      ウツギ      シラカシ

この付近で見られる雑木林の木。



アカタテハ      カラムシ

アカタテハの幼虫は、カラムシの葉を2ツ折りにして葉を食す。やがてこの中でサナギになります。

この付近には、鎌倉時代から南北朝のころに造られたと考えられる青島城<sup>アヲシマ</sup>がありました。戦国時代にも使われていたといわれています。この沼は、その内堀のなごりです。

現在、城跡は畑や民家、雑木林となっていて、そのおもかげはほとんど知ることができません。

この雑木林は、おため池とよばれています。上下2つに仕切られていますが、その上手の池の岸には、カラムシという植物がたくさん生えています。

大きな葉を持つ草で、昔、この草の茎の皮から繊維をとって、布を作ったとされています。あまり目立たない地味な花がさきますが、今では、人にとってはほとんど何の価値もないように思われます。

ところが、この草は、アカタテハにとってたいせつな食草なのです。この草がなくなると、このチョウは繁殖ができなくなってしまうのです。

人にとって何でもない自然であっても、生きものは複雑にがらみ合った関係にあつて、それぞれが欠かさない役割を持っています。

そまつにしないようにしましょう。

★ ゴミは捨てずに持ち帰りましょう。

東松山市・増玉泉  
環境庁

正面は虎御石(とらごいし)と言われる板石塔婆



虎御石/南北朝時代造立





# 虎御石

市指定文化財

この虎御石は、高さ三七五cm、幅七〇×七七cm、厚さ一四cmで、比企・入間地方最大の板石塔婆です。鋭い三角形の山形、深い溝の二条線区画された額部の上面に菘葎体の胎蔵界大日如来を表わす種子（アーンク）が力強く彫られています。種子の下には、深く雄渾な蓮弁が刻まれています。

蓮座の下には四行の真言偈文、さらに三行の銘文が刻まれています。「応安二己酉卯月」とあることから、虎御石は応安二年（三六九年）に建立されたものです。

種子（アーンク）

真言不罵議 右志若引上□善□□敬白  
座) 親補無明除 応安二己酉卯月八日 施主等  
蓮) 一字念千理 即身證法如 古今身之 如伴

昭和五十八年三月

東松山市教育委員会

文化財を大切にしよう



胎藏界大日如来の種字



種字の下の連弁



三行の銘文



側にはこんな板碑もあった





前方にオタメ池の浮島にある祠が見える











この辺りは説明板の通り、三の郭一帯とのこと



遠方に見える怪しげな建物は先ほどのラブホテル



元の道に戻る/右手には二の郭の土塁が展開している



説明板の前方は二の郭/右手に土塁が展開している



怪しげなラブホテルの手前を左に曲がり、二の郭一帯を進む







左手の木々の部分には本郭と二の郭の境にある土塁と堀跡(空堀、水堀)が展開する



この辺りは二の郭/左手に本郭がある



振り返って見る/右手に本郭がある



前方の木々の部分には本郭の土塁と堀跡が展開する





振り返って見る/右手に本郭の土塁と堀跡が展開している



右に曲がり、市指定板碑方向に進む





# 青鳥城跡板石塔婆

昭和三十八年二月市指定

光明遮照

右為結一念仏衆二世善比來

十方世界

大旦那沙弥了願沙弥明国

阿弥陀如来南無阿弥陀仏 正中二年丙午卯月八日

念仏衆生

并念仏衆百人敬白沙弥覚団

攝取不捨

就円満乃至結界平和利河也

高さ二・四二m、幅〇・五四―〇・六〇mを計り、深く切り込まれた二条の線、深く彫刻された種字及び蓮台など鎌倉時代後期に造立された板石塔婆の特徴がよく表われています。

正中二年(一三二五年)卯月(四月)八日に、沙弥了願と沙弥明国及び念仏百人衆が造立したものです。四月八日は釈迦が降誕された日とされており、この日に念仏衆の結集と念仏の功德によって、二世安樂と平和を願ったものでしょう。

昭和五十一年三月

東松山市教育委員会

文化財を大切にしよう



板石塔婆/鎌倉時代後期造立





更に進むと二の郭の虎口に出る



右手の木々の辺りに展開する二の郭の土塁部分を外側から見る





来た道を振り返る



二の郭の虎口を通過して元に戻る



二の郭の土塁と堀跡



説明板へ戻る途中、左手に二の郭の折邪(おりひずみ)を見る/二の郭の土塁がここでクランク状に折れ曲がっている









クランク状に折れ曲がっている



正面に土塁上にある祠が見える







参考ホームページ

[http://www.f2.dion.ne.jp/~fumie.h/houioh/siro/s\\_himatu.html](http://www.f2.dion.ne.jp/~fumie.h/houioh/siro/s_himatu.html)

<http://ckk12850.exblog.jp/3734535/>

<http://www.geocities.jp/boatfisherman832/page037.html>



埼玉県東松山市石橋城山

インターネットより